

西伊豆合宿研修～ひと・まち社としての評価の視点を考える～

評価推進機構主催の評価者フォローアップ研修実践編Ⅱ「評価の視点の導き出し方の理解を深める（児童事例）」について、研修を受講した評価者による伝達研修を5月の評価室会議で行った。機構の研修では、架空の保育園を想定しての事業プロフィールはじめ経営層の自己評価、ワークシートでの問答の内容等、評価をするうえで必要な事業所からの情報が作成されており、その資料を基に、1事業所の評価を各グループで2日間かけて受講者が分析し、評価報告書をまとめていくものだった。伝達研修では、事業所を分析する工程で、現在の取り組みに至る背景には何があるか―事業所の理念、目標に基づいての計画、職員の連携等―について注目することが繰り返し伝えられた。受講者の報告を受けて、ひと・まち社のこれまでの講評と照らし合わせた時に、共通確認が必要ではないかとの意見が出て、改めて時間を作ったの集中研修を計画することとなった。

7月3、4日で伊豆高原にて合宿研修を計画し評価者全員に呼びかけたところ、有志12名の参加があり熱き討議となった。2時間半ほどの時間ではあったが、事前に読み込んできた資料を基に3グループに分かれて、全体の評価講評を話し合って作成した。例えばサービスの配慮がなされて素晴らしいとした場合、その出来事だけではなく、どのような方針、計画に基づいて実行されているか、職員の連携等、どの辺りが優れているか、課題としているか等、良い点や課題が見えてきた背景を探り、そこまで言及して表現できるようにしよう意識して議論を行なった。短い時間ではあるので深める話し合いまでは至らず、最終的に一人ひとりの評価者が項目ごとにまとめていく形をとった。その後も評価室会議において継続して話し合っているところである。



伊豆宿泊研修風景

第三者評価を集約した形となる「全体の評価講評」に、事業所が実践していることを分析して、組織の目指すところ、理念などの思いを限られた字数で、書き表していくことはなかなか難しいものがある。かえって「計画では」とか「〇〇の理念に沿って…」など、文字数に制限されて単調な表現になりはしないか等々…悩ましい。今後、まだまだ話し合っていくことや

機構への働きかけも必要となってくるかもしれない奥深いものである。

研修終了後は、西伊豆の海や山の緑を堪能し、食事

では海の幸を味わい、親睦を深めて帰路についた。



研修後の散策



介護保険・介護予防調査報告会開催

介護予防調査報告会

ひと・まち社では設立当初から高齢者福祉に関する調査を続けてきました。自治体政策研究会の中で介護保険制度20年を検証し、改めて市民調査の必要性を確認し、生活者ネットワーク等との連携で調査活動を行いました。介護保険料はスタート当初から2倍に膨れ上がり、一方で小規模な訪問介護事業所は厳しい運営状況が続いています。都内自治体、地域包括、訪問介護事業所の調査結果を報告します。

2025年10月10日(金)

14時～16時半(13時半開場)

都議会第2会議室

講演: 鏡 諭 氏

(元淑徳大学コミュニティ政策学部教授)

報告: 工藤 春代(ひと・まち社代表理事)

コーディネーター: 坪郷 實 氏

(早稲田大学名誉教授)

司会: 池田 敦子(ひと・まち社理事)

参加費: 1,000円

主催: 認定 NPO 市民シンクタンクひと・まち社

TEL: 03-3204-4342 FAX: 03-6457-6202

申込: npo@hitomachi.org

問い合わせ

東京都議会立憲民主党・ミライ会議・生活者ネットワーク・無所属の会(担当: 日向) 03-5320-7230

編集後記: 突然の高い関税、ハーバード大学への補助金への助成金の凍結…、大統領の一言でこんなに色々なことが実行されるのか!と民主主義への不安を覚えていたところ、TACO (Trump Always Chickens Out) という英国のコラムニストの造語から、日本でも「TACO する」という新語が流行っているそう。最初は威勢がいいのにビビって逃げる。言い得て妙! (M)